THE ROTARY CLUB OF KARIYA

Weekly

創立　1954年３月８日
承認　1954年３月30日

2025～2026年度　国際ロータリー　フランチェスコ・アレッツォ　会長テーマ
UNITE FOR GOOD　よいことのために手を取りあおう

例会日時　毎週月曜日
12：30～13：30
例会場　刈谷市新栄町３の26
刈谷商工会議所内
事務所　TEL〈0566〉22-2111
FAX〈0566〉25-2111
メール　kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ　http://www.kariya-rotary.com
会長　近藤純子
幹事　加藤大志朗
会報委員長　杉浦守康

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3294回例会プログラム

［当年度＝14回目；当月＝３週目］

2025年（令和７年）11月17日(月)

１．例　会……〈司会：プログラム委員会〉

12：00　〈食　事〉
12：28　１．チャイム
12：30　２．点　鐘……〈副会長〉
３．開会宣言
４．ロータリーソング斉唱……
それでこそロータリー
５．講師・ゲスト並びにビジター紹介
６．副会長挨拶並びに副会長報告
８．新会員挨拶……厚谷　祐輔 会員
松島　章高 会員
８．幹事報告
９．出席報告
10．委員会報告
11．ニコニコボックス報告
12．次週並びに次々週のプログラムの予告
（11／24）……休会（法定休日）
（12／１）……
新会員アワー　谷中麻奈美 会員
〃　髙橋　正典 会員

13：00　13．本日のプログラム
卓話「子どもたちが“ありのままの自分”でいられる社会」
～刈谷での映画撮影に向けて～
講師　株式会社 dnuof
前田　直樹 様（映画監督）
（紹介者　鈴木文三郎 会員）

14．謝　辞
15．点　鐘……〈副会長〉
16．閉会宣言

13：30　17．散　会

出　　席

会員総数　95名　　出席免除　22名
出席義務者＋免除者の内例会出席者　87名
欠　席　13名　　出席率　85.06％
前々回（10／27）の修正出席率 100％

副会長報告

１）11月12日(水)　衣浦小学校での学校訪問コンサートに、会長と共に参加して参りました。

２）ロータリー財団より、1500米ドル以上をポリオ根絶活動に寄付したクラブに贈られる、「End Polio Now：歴史をつくるカウントダウン」キャンペーンの感謝状を頂きました。

幹事報告

１）11月17日付で厚谷祐輔会員、松島章高会員が入会されましたので、会員数を95名と訂正致します。

委員会の配属は厚谷会員はクラブ会報・IT 委員会、松島会員は会場委員会になります。

ゲ　ス　ト

米山奨学生　グエン　コン　カン さん

新会員予定者　中島　　亮（まこと）様

新 会 員 紹 介

氏　　名　厚谷　祐輔
生年月日　昭和56年10月30日
推 薦 者　杉浦世志朗 会員
職業分類　証券業
事業所名　東海東京証券㈱
役 職 名　刈谷支店長
所属委員会　クラブ会報・IT 委員会

氏　　名　松島　章高
生年月日　昭和44年10月25日
推 薦 者　嶋津　孝久 会員
職業分類　証券業
事業所名　三菱 UFJ モルガンスタンレー証券㈱
役 職 名　刈谷支店長
所属委員会　会場委員会

副会長あいさつ

今村　　順

副会長の今村順です。本日は近藤会長がお休みですので、会長に代わりご挨拶をさせて頂きます。私のロータリー歴としては、2004年に入会し、2008年のクラブ会報委員会の委員長をはじめに、2010年出席委員会、2012年プログラム委員会、以降、米山奨学委員会、青少年奉仕委員会、ニコニコ BOX 委員会、ロータリー財団委員会と、いくつかの委員長を務めさせて頂きました。

そして委員会活動とは別に、ロータークラブに入会間もないころからソングリーダーに指名され、式典やパーティーの席でクラブソングの指揮をさせて頂いています。ただ私は専門の音楽教育を受けてきたわけではなく、趣味として学生時代から合唱を続けています。私が所属している合唱団は、東海メールクワィアーという社会人の男声合唱団で、高校卒業と同時に入会し、すでに在団50年を超えました。毎年開催する定期演奏会や地方でのコンサートなど、年間を通していろいろなところで歌っています。

海外への演奏旅行にも行っており、これまでにイタリアへ 2 回、北欧に 3 回出かけています。いずれも 1 週間から10日くらいの日程で出かけて、現地では 2 ～ 3 か所でコンサートを行い、地元の合唱団などと交流をしてきます。普通の観光旅行では行けないところにも行くことができ、貴重な体験もしてきました。

一つだけ例を挙げると、2 度目のイタリア演奏旅行では、キリスト教カトリック教会の本拠地でもあり、ローマ法王のいるバチカン市国のサン・ピエトロ寺院で、ミサに聖歌隊として参加しました。ここに観光で行かれた方もいらっしゃると思います。

カトリック教会で新しい法王を選出するときコンクラーベという選挙があり、投票権を持っているのが枢機卿という役職の方たちです。その枢機卿がこの教会でミサの司祭を務めるとき、ミサの中で歌うのが非常に長い歴史を持つジュリア聖歌隊という組織です。この聖歌隊の創立500年を記念するイベントが2010年に行われ、1 年をかけて世界から15の著名な合唱団が招待されました。

その中でアジアからは唯一、私たちの合唱団が招待されて参加し、サン・ピエトロ寺院の中央祭壇で行われた日曜礼拝の記念のミサの中で、ジュリア聖歌隊とともに歌いました。中央祭壇に向かって左側にジュリア聖歌隊、右側に日本の合唱団が立ち、交互に、時には同時にラテン語の曲を歌いながらミサは進んでいきます。教会の中はとてもよく響き、天井から音が降ってくるような神秘的な雰囲気を味わいました。この演奏旅行には中日新聞の記者が同行し、かなり詳しく記事を書いてくれましたので記録に残っています。

そして、その時に参加したメンバーの中の20名ほどが、教会の地下にある聖歌隊の資料室を特別に見学させて頂

きました。そこにはたくさんの貴重な資料が保管されており、私が一番興味をひかれたのは、古い聖歌の楽譜でした。それは現在使われている5線譜ではなく、ネウマ譜と呼ばれる4本線の上に四角形の音符で書かれたもので、手書きの分厚い聖歌集が大切に保管・展示されていました。

卓　　話

「子どもたちが“ありのままの自分”でいられる社会」～刈谷での映画撮影に向けて～

講師　株式会社 dnuof
前田　直樹 様
（映画監督）

プロデューサー
山崎　　歩 様

刈谷市泉田町に生まれ、富士松南小、雁が音中、刈谷北高を卒業し、その後、東京、ロンドン、川崎と拠点を移しながら活動している映画監督の前田直樹と申します。

私は常日頃から映画を含む文化芸術には、人々に対して、外発的・内発的に「気づき」をもたらす力があると考えています。制作者は、自らが受けとめた問題意識、課題意識をさまざまな方法で表現・伝達する行為によって、また鑑賞者は、制作者がたどった創造プロセスや思考に思いをはせ、生み出された行為の追体験や、自分であれば何を考えるのかという自己投影によって、感性を育みます。

私にとって、映画を作ること、観ることは、社会との対話です。

次回作『世界から守ってくれる世界』は、CSRにも繋がる社会的意義のある映画です。本作では、マイノリティーに属する少年少女がありのままに生きようと一歩を踏み出す姿が瑞々しく描かれます。思春期ならではの感受性は、時に周囲の願いとは異なる道を選ぶこともありますが、まずは大人たちが大らかに彼らを見守り「大丈夫。少なくとも私はあなたの味方だよ」と声をかけてあげられる社会であって欲しいと願っています。そして誰もが『ありのままの自分』でいられる社会になって欲しい。そんな想いを込めて製作します。

前回の卓話では、前作「マリッジカウンセラー」（渡辺いっけい、松本若菜、宮崎美子ほか出演）を豊川市など三河6市で撮影し、地域活性・観光推進に繋がったお話をさせて頂きました。そして「遠くない未来、ここ刈谷市でも官民、企業の枠を超えた形で『地元・刈谷市を盛りあげられるような映画撮影』を！」とお伝えしてから2年。刈谷市・刈谷市観光協会からも協力をお約束頂き、ついに映画製作が始動します。

映画『世界から守ってくれる世界』では、製作に向けた協賛金を募集致します。

撮影予定地は、岡崎市、刈谷市、豊田市、西尾市（順不同）です。映画に多くの地元ロケ地や名産物などを登場させられるように、そして完成した映画を広く公開できるように、皆さまからのあたたかいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。